



特殊ルーター E-1



ヒカリハイテック株式会社
代表取締役 片窓 由希子 さん

住 所：〒831-0006
大川市中古賀220-13
F T E L ... 0 9 4 4 - 8 7 - 4 0 2 8
A X ... 0 9 4 4 - 8 7 - 4 0 2 9

今回の夢追い人はヒカリハイテック株式会社、代表取締役 片窓由希子さんにお話を伺いました。ヒカリハイテック株式会社は1973年創業。片窓さん、会長の他13名の従業員がいるそうです。

改めて、事業内容を教えてください。

「大川では木工関係を中心となるため、木工用全般の刃物の他に、建材用刃物や樹脂用刃物などを製造・再生・研磨を行っております。」

製品はどのように製作されているのでしょうか？

「家具のデザインごとにオーダーメイドで刃物を製作します。まずは、お客様のご要望を丁寧に確認し、「どの機械

で」「何の材料で」「どのように加工したいのか」を詳しくヒアリングします。例えば、家具の図面から必要な切削形状

を出し、サイズ、超硬チップの種類、角度など細かな仕様を検討します。刃物の種類や用途によって工程は様々ですが、お客様のご希望をいかに正確に形へ落とし込めるかが重要です。また、お客様にとつての大きな魅力が、超硬チップのグレードを選べることと刃物の再生が可能なことです。弊社では普通の超高度の超硬チップの他に、人気のE-1や最高グレードのMH-1など多様な品揃えからお選びいただけます。また、超硬が薄くなり研磨が出来なくなつた刃物も、新品同様の状態に蘇らせることができます。新品を購入するよりコストを大きく削減できるため、多くのお客様に喜ばれています。」

お客様は大川市内の方が多いのでしょうか。

「刃物で困っているなら、ヒカリハイテックに相談してみたら？」と大川市内はもちろ

技術を受け継ぎ、進化し続ける刃物屋

部外者立入禁止





カッター製作中

再生工程の様子



研磨風景

常にお客様に寄り添うヒカルハイテック。改めて感じるこの仕事の魅力は何でしょうか。

「私は常日頃から、お客様と一緒に家具作りに参加していく」という気持ちで刃物を納めていきます。若い時、初めて刃物の打ち合わせに立ち会わ

人遠方がら多くご相談に来られます。また、宅配でも北海道から南は沖縄まで全国から研磨や製造の依頼が来ます。その土地ごとに刃物の種類が違いますし、その土地の方言と大川弁での打ち合せも大変面白いものがあります。最新技術はもちろん、昔からの高度な技術に対応できる職人も在籍しているので、微妙なブレを直すような繊細な作業も可能です。お客様の希望や刃物の状況を見極め、柔軟に修正や加工を加えていきます。」

大川商工会議所議員、女性会にも所属されている片瀬さんですが、仕事をする上で「モットー」を教えてください。

「私のモットーは、出来ないと言わない事と、小さな疑問を聞き流さない事です。人間は万能ではないので、できないうことがあるのは当然です。ただ、出来ないと言う言葉を使う時は、どんなに努力してもどう頑張っても出来ないと、思つた時に、初めて使うようになります。どうしたら出来るか一生懸命考える姿勢を大切にしています。これは営業のメンバーにも工場の技術職の人にも、そして自分

刃物に対して初めて、興味深いために、家具の図面を見て、「なんて夢のあらわしの仕事なんだ」と思いました。刃物に対する初回は、木工まつりで思いました。私は切削されている木材の姿しか見ることが出来ません。お披露目されている家具の姿を見ると、「これがあの時に製作した刃物で出来た家具なんだ」とワクワクします。お客様とお話しし、刃物に触れれば触れるほど、その奥深さを感じ一生勉強だと痛感しています。現在はなかなか現場に出向くことが出来ず、少し寂しく感じることもありますが、それでも刃物を通してお客様とつながれるこの仕事にやりがいを感じています。」

「創業者は父ですが、母の闘病と子供がまだ小さかったこともあり、会社は一時期別の会社にお譲りしていた時期がありました。その間に、私は現場や経営についてさまざまな経験を積みました。その後ご縁に恵まれて会社が再び戻ってくることになり、2022年に代表取締役社長に就任いたしました。家具作りに携われる刃物業が好きなことと、社員のみんなの生活を守つていきたいという強い思いで役割を引き受ける決意を

自身にも常に言い聞かせていいことです。また、仕事の中でもふと「？」が浮かぶ瞬間があります。その小さな違和感を見逃さないことも大切にしています。刃物はわずかな条件や用途の違いで何を選択するかが大きく変わるため、些細な疑問にこそ丁寧に向き合はずべきだと考えています。そしてもうひとつ。「悩むくらいならやる」です。女性会や商工会議所もその思いで加入することを決めましたが、バイタリティ溢れる方々との出会いに大きな刺激をいただいております。振り返れば2025年は素晴らしい出会いの年でした。そうした出会いも自分を前に進める力になっています。」

方が培つた技術を受け継ぎ、さらにパワーアップしていくたいと思つています。また今まで取り扱つてきていないう業種の刃物にも挑戦しています。新しく刃物を製作します。現場で実際に機械に取り付けてテストして上手くいくと、本当に感動します。そして技術が一段階上がつたスタッフの達成感に満ちた表情を見るたび、私自身も胸が熱くなりります。お客様の役に立ち、喜んでいただけることが何よりの幸せです。常に進化し続ける刃物屋でありたいと思います。」

しました。私は、大川家具は大川の誇りだと思っています。その家具作りに関わらせていただけることを、とても嬉しく大きなやりがいに感じています。これまで育ててもらつた大川に、少しずつでも恩返しができるようにこれからも大川の役に立てる仕事を続けていきたいと思っています。」